

全組合  
安組  
通協  
交業  
県設

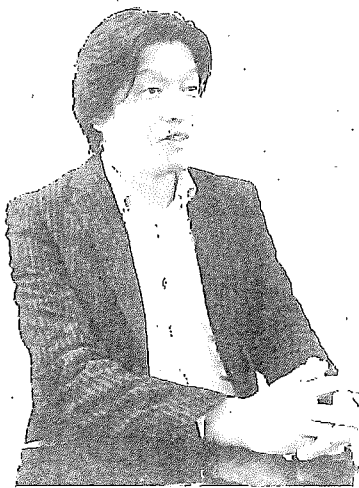
# 伝統と新たな方向性

## 中井正弘新理事長に聞く

群馬県交通安全施設業協同組合の2017年度第37回通常総会で、新理事長に選出された中井正弘氏。標識担当理事や規約会計理事などを歴任し、長く協会を支えた信頼と実績は協会員からも厚く、満場一致で第12代理事長に就任した。伝統を重んじ、基本に忠実に取り組むつつ、新しい方向性を示すと意気込む。時代の節目と捉える中井新理事長に、協会の取り組みやこれからについて聞いた。

理事長としての抱負 ばれた時代に、交通事故まれ、発展してきた。先を減らすために、交通法

中井 当業界は昭和30 滞はこうしたら解決でき 年代の「交通戦争」と呼



なかい・まさひろ

【略歴】中井産業専務取締役。2011年度から標識担当理事、13年度から規約会計理事を歴任し、17年度から理事長に就任。50歳。

は 理事長としての抱負 ばれた時代に、交通事故まれ、発展してきた。先を減らすために、交通法 輩たちの努力の結果、築 いてきた伝統を守ってい きたい。わたしも会社の 2代目、業界自体も新し い時代へと移りゆく節 目。群交協の存在意義を 再認識して基本に忠実に 組合運営をしていくこと もに、新たな方向性を示 していければと思う。

交通安全施設業の現 状と仕事 中井 先輩達が区画線 や標識、防護柵の専門工 事業を確立してきた。そ れを踏まえてどうしたら 良いかという新たなこと を考えていきたい。今ま

ではモノを造れば良かった時代で新設する道路があつた。今はそうではな く、組合員22社が加盟して いて仕事がないわけでは ないが、新設の時代から 維持管理へと向かつて いる。例えば山道で霧が かかっている暗くて何も ない道路を走らなければ ならない凄く不安な時、 そこに白線が引いてあつ たとき凄く安心する。こ れがわたしたちの仕事。 山道に区画線が引いて あつて費用対効果がある かと言われればないが、 引いてある事による安心 感は代え難いモノがあ る。われわれの仕事は費用 対効果だけでは計り知 れない、行政サービスの 一翼を担っているという自 覚がある。また美しい道 路、女性でいへば化粧 のような目に見える部分 を担っている、そんな一 面もある。

17年度の組合の事業 計画は

中井 道路標識・道路 反射鏡などの清掃・点 検・調査として社会貢献 活動を継続して実施して いく。わたしたちは施工 会社であり、ただ清掃す るだけではない、カーブ ミラーや標識の角度を適 正に直すことや現状の性 能点検もできる。専門工 事業者の目で見えた清掃作 業をしていきたい。また、 ことしで26回目となる交 通安全施設研究会では行 政側の最近の事象講座や 組合側として維持点検技 術の研究報告をし、情報 交換を行っていききたい。 さらに群馬県主催の群馬 道路フェアに積極的に協 力する。ともに、県との 防災協定に基づき保安機 材などの提供が迅速に行 えるように事前準備を徹 底したい。

先を見据えて

中井 車の自動運転化 には誘導目標として区画 線が不可欠で、時代の変 化に対応した国際基準への 対応も近い将来必要に なることも考えられる。 また、標識や防護柵の高 度化にも開発の余地があ る。さらに7月1日から 省令の一部が改正にな り、「止まれ」と「徐行」 に英語表記されたものの 設置が可能になる。観光 立県として、観光客の国 際化に伴う案内・規制標 識や区画線文字の英語化 に積極的に取り組むこと もに、電子トンネル事故 以降の標識や防護柵の維 持点検管理技術の確立な ど、まだまだ業界のやる べき仕事は沢山ある。専 門工事業として組合員の 努力とともに団結、意見を 出し合い、協力し合っ てより良い組合を目指し ていく。

組合の抱える課題 中井 工事量が減少傾 向の中、組合でできる専 門工事をいかに確保して いくかが課題。そのため に事業量の確保ととも

に、組合の存続のために 区画線・標識・防護柵な どの工種の分離発注を引 き続きお願いしたい。行 政とは全面的に協力関係 を築いていきたい。